



三重塔裏側 新たに造立された胎蔵界大日如来

青葉の笛だより

第 14 号

平成 26 年 12 月号

発行所：大本山 須磨寺

〒654-0071

神戸市須磨区須磨寺町4-6-8

TEL 078-731-0416(代)

<http://www.sumadera.or.jp/>

平成二十七年は「ひつじ年」です。中国では古くから羊は家畜の中では良い姿をし、性質も温和で食べればおいしく、神様にお供えするめづたい物の代表とされてきたそうです。そのため「うつくしく、おいしく、めづたい」というところから、羊に大の字をつけて「美」という字が生まれました。美味しい羊の肉は、食すと身体に活力を与えるので「養」の字となり、須磨寺の本名である福祥寺の「祥」の字は、神様を表す「示す編」と「羊」で、神に捧げるといふ、めづたいことを意味する字になったそうです。他にも「善」や「群」、人の道を示した「義」など羊の字を使うものは沢山あります。「羊羹」などは、本来は羊スープレの煮凝りのことで、「羊」の字が三つも入っています。

もう一つの「未」の字は、木の枝葉が伸びきっていない様子を描いている文字で、木の上の「一」の字が枝葉を表しています。「いまだくせず」という意味を持つと同時に、この字もまた偏や旁が

つくことによっていろんな意味を持ち、「口」がつけば「味」になり、「日」がつくと「味」という字になります。仏教では牛乳を精製する過程の味を乳味、酪味、生酥味、熟酥味、醍醐味の五段階に分け、醍醐味を最上のものとした。それが最上最高の事を「くの醍醐味」と言うのです。また味は光がかすかで見えにくいことを意味している字で、愚昧や蒙昧など物事を知らず、道理に暗いというような事で使われる字ですが、仏教では「もろもろの縁を切って静かな定に入る」という梵語「samadhi」を音訳する時に「三昧」と表されたので、修行三昧や読経三昧などと良い意味になり、世間や時間を離れて物事に集中する「く三昧」として使われるようになりました。

これまで「羊・未」の字についてお話ししましたが、阪神・淡路大震災から二十一年、高野山開創から千二百年になる記念の年に、私は還暦を迎えます。自分の人生を見つめなおし、初心に帰るような気持ちでお寺や地域に尽くし、皆さんにとって幸多き一年となりますよう、日々の祈りに努めてまいりたいと思っています。

大本山須磨寺 貫主

小池 弘三

合掌

十三佛に見守られて

種智院大学名誉教授・実相寺住職

頼富 本宏

はじめに

昭和四十八年九月三十日、私と妻博子は、大本山須磨寺前貫主・小池義人僧正夫妻に御媒酌いただき、仏前結婚式をあげました。その後、三十数年、幸い一男三女にも恵まれて幸福な生活を送っていましたが、病魔は避けがたく、妻は六年間のガン治療で快癒したにもかかわらず、平成十七年六月三十日、予期せぬ感染症でこの世を去りました。葬儀・通夜に続く四十九日間、七日ごとに故人を供養し、七七日（四十九日）満中陰の時にも多くの方々が焼香に来ていただきました。時は移り、一周忌、三回忌、七回忌もすませて、次は三年後の十三回忌に心をこめていきます。

最初から私的な思い出話になつてしまいました。が、仏教では昔から亡くなった方の魂・霊をなぐさめ、供養してくださる仏さまのグループが決まっております、あつく信仰されてきました。わが国では、鎌倉時代の終わり頃には、現在の十三体のほとけさまが集成され、「十三仏」と呼ばれ始めました。それぞれ人気があるほとけさまが、七七日忌や三回忌の守り仏として呼ばれましたが、江戸時代になつて庶民の暮らしが安定してくると、このあとお話する十三仏事（初七日忌から三十三回忌）だけでなく、十七回忌や二十五回忌にあたるほとけさまも新しく選ばれました。

この連載では、「十三仏」としてまとめられる各ほとけさまの姿、働き、功徳をわかりやすく紹介しますが、まず、簡単に現在

の十三仏がどのようにして成立したかを、一応、歴史的に説明しておきましょう。

仏教は、お釈迦様の国・インドで生まれましたが、そこでは生命あるもの（衆生）は、この世で亡くなると、次の世界に生まれる前に七週間の中間期間があります。これを中有もしくは中陰といいます。そして仏教が中国へ伝わると、中陰の各週（初七日など）だけでなく、百か日忌、一周忌、三回忌を加えて、それぞれの忌日に亡くなった故人が生前に罪や不正をしていなかったかを裁く冥界（あの世）の裁判官が登場します。これを十王といい、その代表者が有名な閻魔大王です。この信仰は、平安時代に日本に伝えられ、今でも古いお寺には、閻魔大王を含む十王をまつる閻魔堂や十王堂がのこっています。

しかし、日本ではすでに阿彌陀如来、観音菩薩、地藏菩薩、不動明王などの地獄をはじめとする六道（六つ生存世界）を救つてくださる庶民のほとけが大流行していましたので、十王よりも仏教のほとけたちを次のように各仏事（法事）の守り仏としたのです。この組み合わせは、わが国で編纂された『発心因縁十王経』に説かれています。

忌日	十王	十仏
初七日忌	秦皇王	不動明王
二七日忌	初江王	釈迦如来
三七日忌	宋帝王	文殊菩薩
四七日忌	五官王	普賢菩薩

五七日忌	閻魔王	地藏菩薩
六七日忌	変成王	弥勒菩薩
七七日忌	太山王	弥勒如来
百か日忌	平等王	観音菩薩
一周忌	都市王	勢至菩薩
三回忌	五道転輪王	阿彌陀如来

このあと、日本で誕生した故人（先祖）供養の法事である七回忌、十三回忌、そして供養納めの三十三回忌が付け加えられ、それぞれにいくつかのほとけさまが配当されましたが、中世の中頃には、以下のように固定されました。

七回忌	阿閼如来
十三回忌	大日如来
三十三回忌	虚空蔵菩薩

その後、宗派、地域などの違いはなく、これらの十三仏が信仰され、その真言などが唱えられています。

二、初七日忌を導いてくださる不動明王
ある方のお葬式が終わると、数日後、最初の仏事（お勤め）である初七日忌が、厳粛に執り行われます。日程の決め方は、死去当日からとる関東と、命日の前日から数える関西とは「日開き」がでることもあります。

その中陰仏事の最初をつかさどる、つまり親しくお世話し、導いてくださるのが不動明王です。十三仏の中でただ一尊、怒りのほとけ明王として、右手に剣を持ち、左手に人びとを救うる繻索（なわ）を持った不動明王は、一見して恐ろしい姿をして私たちを威嚇しているようですが、それは親しい人を亡くした私たちに對してではなく、故人を守るとも

に、悲しみの機会につけ入って、私たちに障り妨げをなす外的な困難や苦難あるいは心の闇や弱さを慈悲の怒りで鎮めていらつしやるのです。

泰然自若として「動かざるもの」という不動明王を、最初に唐の国から持ち帰られたのが、弘法大師・空海ことお大師さまです。その帰路をお守りしたという「波切り不動」は、今も高野山のお寺でまつられています。また、お護摩の祈禱の本尊として有名で、山岳修行者である山伏も、その姿は不動明王をまねたものと伝えられています。

不動明王の詳しいお姿は、密教の中心経典である『大日経』に説かれています。右手に持つ剣は「破邪の剣」と呼ばれ、外的には悪をする魔物を退け、また内的には心の悩み、苦しみを取り除いてくれます。「お不動さん」として親しまれているほとけさんは、はじめは使者、給仕として如来の使い走りをしており、そのため童子（子供）の姿をしていました。そのうち、その強力な威力が評価され、密教の本尊さんの大日如来の怒つたときの姿（教令輪身）と解釈されました。そのときには、あとから登場した降三世、大威徳などのインドのヒンドゥー教の影響を受けて成立した明王たちを集めて、五大明王という強力な明王グループを作り上げました。いまでも京都の東寺、醍醐寺、大覚寺などの密教の本山寺院にお参りすると、その仏像や仏画を拝見することができます。

子供を愛し、育む時には、母親のように抱きしめて、ともに悩み、苦しむ観音菩薩の慈悲も必要ですが、むしろ父親のように、正しく、高い視野から導くことも大切です。不動明王が十三仏の最初におかれるのも、ごく当然のことでしょう。

除夜の鐘と 千巻心経法要のお知らせ

平成二十六年十二月三十一日、午後十一時四十五分より、例年通り、参拝者の皆様を除夜の鐘を撞いていただきます。先着百八名の方々には、記念品の特別絵馬を授与します。百八番目までの整理券は、午後九時半に鐘撞き堂前にて配布します。

百九番目以降の方も、午前二時までは自由に鐘を撞いていただくことができます。

大晦日の夜、当山境内にて、清らかな鐘の音と共に、旧年中の煩惱を払い、清々しい気持ちで新しい年をお迎え下さい。

また、同時刻より、本坊護摩堂に於きまして、千巻心経法要を執り行います。



当山管長導師のもと、旧年の厄を払い、新たな気持ちで新年を迎えられるよう、太鼓の音に合わせ、般若心経を唱えます。

新しい年を迎えるに当って、旧年にも増して皆で助け合い、仏様の智慧をいただき、明るい気持ちで過ごしていけるよう共にご祈念したいと思ひます。

修正会のお知らせ

平成二十七年一月一日午後二時より、当山本堂に於きまして、新春開運修正会（大般若転読法要）を執り行います。

導師が、経題を唱えた後に続き、職衆各々が経本を展開する「転読」という特殊な読みかたで、総数六百巻に及ぶ、長大なお経「大般若経」を誦読します。その功力をもって皆様の家内安全、厄除開運から、国家安穩、世界平和に至るまで、一年間の無事を祈念します。

本年十二月末までに祈願札を申込みされた方には、当日本堂にお入りいただき、導師の加持した経本で身体を加持いたします。

新しい一年のご多幸を、皆さまと共に祈念したいと思ひます。

授与品 五千円祈願札（木札） 破魔矢

三千円祈願札（紙札）

申込期限 十二月三十一日十七時まで

須磨寺寺務所にて承ります



須磨寺管長

「乙未歳後七日御修法」出仕

後七日御修法とは、一月八日から一週間、京都の東寺にて執り行われ、真言宗各派総大本山の山主と定額僧によつて国家安泰と世界平和を祈る真言宗最大の法要であります。この度、当山管長が平成二十七年後七日御修法に出仕いたします。そこで、結願にあたる一月十四日にお迎えに上がり、あわせて法要が行われた直後の「灌頂院」の道場を参拝するバスツアーを企画いたしました。「灌頂院」には、一年でこの日にしか入ることができません。貴重な機会ですので、ご知友お誘い合わせのうえ是非ご参加ください。



- 一、日 時 平成二十七年一月十四日（水曜日）
- 一、行 先 東寺「灌頂院」
- 一、旅行代金 一人七千円也（昼食・拝観料を含む）
- 一、出発時間 午前八時 須磨寺前交番 出発
- 一、募集人数 四十名（定員になり次第締め切らせていただきます。）

※お申し込みは須磨寺寺務所にて承ります。

三重塔・出世稲荷落慶法要



去る十月二十六日「三重塔改修・出世稲荷社新築落慶報告法要」が執り行われました。当日は素晴らしい秋空のもとでの法要となり、檀信徒ら約三百人と共に落慶を祝いました。当山管長が導師をつとめ二十二人の職衆僧侶が参列し、三重塔で「理趣経」を誦読。読経が響く中、稚児は僧侶から加持をうけ、本尊様に献花しました。その後、今回新たに奉安した胎蔵界大日如来様の入仏開眼供養が行われました。出世稲荷社では、綱敷天満宮の久野木啓太宮司が祝詞を奏上し、神仏習合の記念すべき法要となりました。最後に、記念式典と須磨琴の奉納演奏が行われ盛大な中、落慶法要は無慮成満致しました。

同日の夜には、本堂前にて、藤原道山（尺八）・SINSKE（マリンバ）のお二人による記念奉納コンサートが行われました。約三百人の方々が一時間半の演奏に聴き入っていました。

三重塔は、三十年前の千九百八十四年に須磨寺開創千百年、弘法大師入定千五十年、平敦盛公八百年御遠忌を記念して約四百年ぶりに再建されたもので、この度再建三十周年を記念して塗装替えを中心とした改修工事が行われました。三十年前、三重塔本尊である金剛界大日如来様を彫られた須磨寺大仏師・山高龍雲先生が、この度、新たに胎蔵界大日如来様を彫られ、三重塔裏堂に奉安されました。この大日如来は毎月二十日、二十一日の大師縁日に御開帳されますので、是非ご参拝ください。

出世稲荷社は老朽化が進んだ為、創建四十五周年を記念してこの度、建て替えられました。

高野山開創1200年記念大法会

高野山1泊2日の旅

参加募集

須磨寺・高野山大法要 須磨琴奉納演奏

平成27年、弘法大師が高野山を開創してから1200年目を迎えます。高野山では平成27年の4月と5月の二ヶ月間に渡り、記念行事が行われ、多くの法要が営まれます。須磨寺は4月10日に、当山管長導師のもと、高野山金堂にて大法要を厳修致します。各寺院の特色を活かした法要をするということで、須磨寺は、須磨琴との共同での法要となります。50年に一度の大法要でございます。多くの方と共に大師様と高野山の仏様に祈りをこめることができれば幸甚です。皆様是非ともご参加くださいませ。



日時：平成27年

4月9日(木)～4月10日(金)

旅行代金：25,000円 大人おひとり様(税込み)
※男女別、相部屋となります

募集人員：120名様 (最小催行人員：80名様)

添乗員：全行程同行 食事：朝食1回、昼食2回、夕食1回
申込み締切日：平成27年3月9日(月)

募集要項

方申込み

須磨寺寺務所、須磨寺派各寺院で受け付けます。
または、下記申込書にご記入いただきJTBまでFAXしてください。

ご宿泊

高野山 / 遍照光院 (4～8名1室・和室) TEL:0736-56-2124
※各部屋(風呂なし・一部トイレなし)。大浴場、共同トイレございます。

コースのご案内 ○下車 ●入場 ―貸切バス

4月9日(木)

高野山真言宗遺跡本山
須磨寺 ―《阪和道・阪神》― ●檜尾山観心寺 ―
8:30 10:30 11:30
―天然温泉 ゆの里(昼食)― ○九度山 慈尊院 ―高野山(夕食・泊)
12:30 13:30 13:40 14:40 15:40頃

4月10日(金)

(朝食)お宿 ― ○奥の院 ― ○立里荒神 ―
8:00 8:15 9:45 10:30 11:30
―高野山中本名玉堂(昼食、ショッピング)― ●高野山開創1200年記念法会 ―
12:15 13:15 13:30 16:00
※14:00～壇上加藍(金堂)にて大法会
―《阪和道・阪神》― 須磨寺
19:30頃

企画協力 大本山須磨寺

旅行企画・実施 JTB 西日本

(株)JTB
小濱あて

FAX.078-570-0159 お申込書

(旅行代金はJTBより請求書を送付させていただきます)

ふりがな

◆氏名 住所 〒 TEL 年齢 才 男・女

ふりがな

◆氏名 住所 〒 TEL 年齢 才 男・女

ふりがな

◆氏名 住所 〒 TEL 年齢 才 男・女

ふりがな

◆氏名 住所 〒 TEL 年齢 才 男・女

※ JTB あてにこの面を FAX またはコピーしていただき郵送にてお申込下さい

須磨寺の石仏シリーズ・VIII 須磨寺本坊檀家 井上 勇

一石五輪塔 第二話 *信仰と伝説*



一石五輪塔は「青葉の笛だより」第11号で紹介しましたが、須磨寺山内、その近隣などで身近によく見かける石仏です。

大きさは七十cmから二十cmほどのものがあり、下から方形の地輪、円形の水輪、三角形の火輪、半月形の風輪、宝珠形の空輪からなり、仏教という地水火風空の五大を表しています。いずれも花崗岩系で、江戸時代中期に作られたものが多いです。

須磨寺山内と西須磨協議会霊園（村墓）などに約三百基が祀られ、須磨地域では三千余基が存在しています。



須磨寺山内の一石五輪塔群（80基）



西須磨協議会霊園「通称村墓」
須磨寺、寺院墓石共に祀られる一石五輪塔（50基）

なぜこの地域に三千余基も祀られたのでしょうか。西須磨の伝説には「源平合戦一の谷の戦いで討ち死にした兵士の声が夜な夜な聞こえることから、その霊を弔う為、寒村で出来る小さな五輪塔を造り、祀り続けた」という言い伝えが残されています。

西須磨の伝承によると、戦後の須磨では、子供の麻疹が無事全快すると、身近に祀られている地藏尊と一石五輪塔にお礼参りをして子供の無事成長を願う習慣があつたようです。

また、現在でも地藏尊には、お地藏さまと一緒に一石五輪塔も赤い前掛けをして祀られ、子供たちを見守っている風景をみることが出来ます。このように一石五輪塔は昔から庶民の崇拜する石仏でありました。これからも地域のみなさんと共に、大切に祀り続けていきたいと思っています。

◆奉納に対する御礼◆

平成26年7月1日～12月14日

尊地藏地わらべ奉納

藤田 権廣	美卓 一卓	吉田 楠	正三 和博
藤下 藤	裕史様	片山	一雄様

須磨寺剣道教室

剣道には「気剣体一致」という言葉があります。これは心の動き（気）、竹刀の動き（剣）、体の運び（体）の三つが一致してはじめて有効打突になるという考え方です。そのため、スポーツとしてだけでなく、精神を鍛える場として剣道を続けている人が多いです。

須磨寺剣道教室は正覚院阿字観道場にて小学生、中学生を対象に、毎週金曜日に活動しています。現在部員数十五名、今後より多くの豆剣士を募集して稽古に励もうと思っています。「心、技、体」礼に始まり礼に終わる、日本の伝統武道を学んでみませんか？初心者、女子も大歓迎です。是非一度、正覚院阿字観道場まで見学にお越し下さい。

◆指導者

徳田 泰伸（兵庫大学教員・剣道教室監督）
朝倉 経義（正覚院副住職）
泊 将史（神戸大学学生）
小林 靖弘（神戸大学学生）
高田 怜佳（兵庫大学学生）

◆場所

正覚院阿字観道場

◆日時

毎週金曜日
午後五時半～七時まで

◆月謝

三千円

◆連絡先

正覚院

（078）731・0374



須磨寺 大峰山入峰修行

去る九月四日、須磨寺青年会主催「大峰山入峰修行」が行われました。十一名が参加し、内二名が初めての入峰でした。今回は、早朝に洞川の龍泉寺にて水行し、山上ヶ岳へと向かいました。途中雨が降りましたが、全員で修行を無事成満いたしました。今回初めて参加された、大学生の井上浩之さんの体験談を掲載します。

九月四日、須磨寺青年会の大峰山入峰修行に参加させて頂きました。修行は水行から始まります。朝の清々しい空気の中、合掌して水に入り、お経を唱えて身を清めました。

山に登る最中には「懺悔懺悔六根清浄」と大声で唱えながら歩きます。これは、本来清浄である六根（眼、耳、鼻、舌、身、意）が煩惱で汚されている為、自分の犯してきた罪を懺悔し悔い改めるといふ修験道の教えです。

そして表行場での修行を終えて、「西の覗き」といふ覗き行場に行きました。命綱一本のみを頼りに、切り立った断崖絶壁から身をのりだして下を覗き込むという修行ですが、私は、あまりの高さと怖さでまともに覗くことができませんでした。中には上半身を全てのりだして宙吊りに近い状態の僧侶の方もおり、この修行の過酷さ、修行者の凄さを実感しました。

その後、裏行場での修行を終えて下山し始めたとき、次のような話を聞かせていただきました。「表行場の修行で一度死に、裏行場の修行を経てもう一度生まれ変わる。だから今自分は汚れない綺麗な姿になって山を下りて行くのだ。」という話でした。私はこの話がとてもありがたく、今回の修行で一番印象に残りました。

大峰山での体験は、新鮮な出来事ばかりでとてもいい経験になりました。また機会があれば是非参加したいと思っています。

桜寿院 信徒 井上 浩之



須磨寺の歴史(十四)

― 須磨寺参詣曼荼羅(三) ―

参詣曼荼羅とは参詣対象の寺社だけではなく、その周辺地域の伝承も描かれています。今回は「須磨寺参詣曼荼羅」に描かれている須磨の伝承を紹介します。

まず曼荼羅の一番右下を見ると、貴族らしい人物が従者をつれて松を見上げ、その傍らには女性が二人描かれています。ここで描かれている人物は須磨に配流中の在原行平で、女性は松風・村雨姉妹です。見上げている松は行平

が京に帰る際、この姉妹に形見として残した烏帽子と狩衣を掛けた衣懸松です。そして、曼荼羅中央の一番下にも松が描かれています。一説には、源平合戦の時に平家の猛将として名をはせた平重衡が源氏に捕えられた時に、腰を掛けた松だと伝えられております。これは、現在の山陽須磨寺駅前「とらわれの松」跡として石碑が立っています。平成十九年に「松」が須磨区の木に選ばれましたが、これら須磨の伝承に松が深く



関わっていることから納得できます。

また曼荼羅の下部には川が流れていますがこれは路守川（現千森川）で、画面の左下にある橋を渡ったところに描かれた建物は、須磨の閑屋と閑守稲荷です。須磨の閑屋とは、大宝令（七〇一年）で定められた摂津の閑で七八九年頃に廃止されたといわれています。そして閑守稲荷はこの閑の守護神として祀られたと伝えられています。この地点は、今も須磨の閑屋跡（閑守稲荷）として知られ、境内には百人一首で知られる源兼昌の歌碑があります。

そして最後に画面の左下を見ると、石製の五輪塔が描かれています。これは敦盛塚（胴塚）です。この高さ約三・七九メートルの巨大な五輪塔がある場所は、本来であれば現在の須磨浦公園のある位置で、絵に描かれている場所と差異がありますが、須磨寺を語るときに敦盛は欠かせない存在である為に描かれたのでしょう。

このように「須磨寺参詣曼荼羅」には須磨寺と須磨に関する伝承が余すことなく描かれており、須磨寺が須磨の伝承を古くから伝えてきたことがわかります。次回は、「須磨寺参詣曼荼羅」に描かれた当時の社会状況、思想などを紹介します。

平成27年 年間行事 予定表

1月 1日(元旦・木) 14時 開運修正会(大般若転読) 須磨寺本堂 3ヶ日 10・12・14時 正月特別護摩祈禱 本坊護摩堂 17日(土) 5時30分 大震災物故者慰霊法要 須磨寺本堂 10時 大震災物故者慰霊法要 本坊客殿 28日(水)～2月3日(火) 5時15分 寒行(星祭護摩祈禱) 本坊護摩堂		6月 15日(月) 10時 弘法大師降誕会 本坊大師堂	
2月 3日(火) 10時、14時 節分星祭護摩祈禱 本坊護摩堂 14時 節分星祭祈禱 蓮生院 14時 節分星祭祈禱 桜寿院 12日(木) 15時 須磨寺先師忌土砂加持法要 本坊客殿		7月 28日(火)～8月3日(月) 5時15分 土用行(夏行) 本坊護摩堂 30日(木) 子供寺子屋修行	
3月 7日(土) 14時 平敦盛・源平戦士追悼法要 須磨浦公園 敦盛塚 11日(水) 14時30分 東日本大震災 自然災害物故者慰霊法要 18日(水)～24日(火) 彼岸会(特別護摩祈禱) 26日(木) 14時 平敦盛・源平戦士追悼法要 須磨寺本堂		8月 9日(火) 18時 四万六千日法要(みあかり観音) 12日(水)～15日(土) 盂蘭盆会 15日(土) 14時 盆大施餓鬼法要(本坊) 本坊客殿 17日(月) 青葉殿盂蘭盆会法要 青葉殿 19日(水) 14時 盆大施餓鬼法要(桜寿院) 桜寿院本堂 20日(木) 14時 盆大施餓鬼法要(蓮生院) 蓮生院本堂	
4月 4日(土) 13時 十三まいり 本坊 客殿 6日(月)～8日(水) 花まつり 9日(木)～10日(金) 高野山バス旅行 10日(金) 14時 須磨寺 高野山開創1200年記念法要 (須磨琴奉納演奏) 高野山金堂 17日(金) 9・12・15時 青葉殿 納骨供養祭		9月 20日(日)～26日(土) 彼岸会(特別護摩祈禱)	10月 25日(日) 須磨琴50周年記念演奏会 神戸文化ホール 11月 23日(祝・月) 11時 須磨の火祭り 柴燈護摩 本坊 12月 31日(木) 23時45分 千巻心経護摩法要 本坊護摩堂 除夜の鐘 鐘楼堂 (21時30分 除夜の鐘 整理券配布) 毎月 18日 10時 写経会 20・21日 お大師参り

平成二十七年度 数え年早見表

未	午	巳	辰	卯	寅	丑	子	亥	戌	酉	申
平成27年 1 ● 羅喉星	平成26年 2 ○ 土曜星	平成25年 3 ● 水曜星	平成24年 4 ○ 金曜星	平成23年 5 ○ 日曜星	平成22年 6 ● 火曜星	平成21年 7 ● 計都星	平成20年 8 ○ 月曜星	平成19年 9 ○ 木曜星	平成18年 10 ● 羅喉星	平成17年 11 ○ 土曜星	平成16年 12 ● 水曜星
平成15年 13 ○ 金曜星	平成14年 14 ○ 日曜星	平成13年 15 ● 火曜星	平成12年 16 ● 計都星	平成11年 17 ○ 月曜星	平成10年 18 ○ 木曜星	平成9年 19 ● 羅喉星	平成8年 20 ○ 土曜星	平成7年 21 ○ 水曜星	平成6年 22 ○ 金曜星	平成5年 23 ○ 日曜星	平成4年 24 ● 火曜星
平成3年 25 ● 計都星	平成2年 26 ○ 月曜星	平成元年 27 ○ 木曜星	昭和63年 28 ○ 羅喉星	昭和62年 29 ○ 土曜星	昭和61年 30 ○ 水曜星	昭和60年 31 ○ 金曜星	昭和59年 32 ○ 日曜星	昭和58年 33 ○ 火曜星	昭和57年 34 ○ 計都星	昭和56年 35 ○ 月曜星	昭和55年 36 ○ 木曜星
昭和42年 37 ○ 羅喉星	昭和41年 38 ○ 土曜星	昭和40年 39 ○ 水曜星	昭和39年 40 ○ 金曜星	昭和38年 41 ○ 日曜星	昭和37年 42 ○ 火曜星	昭和36年 43 ○ 計都星	昭和35年 44 ○ 月曜星	昭和34年 45 ○ 木曜星	昭和33年 46 ○ 羅喉星	昭和32年 47 ○ 土曜星	昭和31年 48 ○ 水曜星
昭和18年 49 ○ 金曜星	昭和17年 50 ○ 日曜星	昭和16年 51 ○ 火曜星	昭和15年 52 ○ 計都星	昭和14年 53 ○ 月曜星	昭和13年 54 ○ 木曜星	昭和12年 55 ○ 羅喉星	昭和11年 56 ○ 土曜星	昭和10年 57 ○ 水曜星	昭和9年 58 ○ 金曜星	昭和8年 59 ○ 日曜星	昭和7年 60 ○ 火曜星
昭和30年 61 ○ 計都星	昭和29年 62 ○ 月曜星	昭和28年 63 ○ 木曜星	昭和27年 64 ○ 羅喉星	昭和26年 65 ○ 土曜星	昭和25年 66 ○ 水曜星	昭和24年 67 ○ 金曜星	昭和23年 68 ○ 日曜星	昭和22年 69 ○ 火曜星	昭和21年 70 ○ 計都星	昭和20年 71 ○ 月曜星	昭和19年 72 ○ 木曜星
昭和6年 73 ○ 羅喉星	昭和5年 74 ○ 土曜星	昭和4年 75 ○ 水曜星	昭和3年 76 ○ 金曜星	昭和2年 77 ○ 日曜星	昭和元年 78 ○ 火曜星	大正14年 79 ○ 計都星	大正13年 80 ○ 月曜星	大正12年 81 ○ 木曜星	大正11年 82 ○ 羅喉星	大正10年 83 ○ 土曜星	大正9年 84 ○ 水曜星
大正8年 85 ○ 金曜星	大正7年 86 ○ 日曜星	大正6年 87 ○ 火曜星	大正5年 88 ○ 計都星	大正4年 89 ○ 月曜星	大正3年 90 ○ 木曜星	大正2年 91 ○ 羅喉星	大正1年 92 ○ 土曜星	大正1年 93 ○ 水曜星	大正1年 94 ○ 金曜星	大正1年 95 ○ 日曜星	大正1年 96 ○ 火曜星
大正1年 97 ○ 計都星	大正1年 98 ○ 月曜星	大正1年 99 ○ 木曜星	大正1年 100 ○ 羅喉星	※大厄……男：41歳・42歳・43歳 女性：32歳・33歳・34歳 ※2月3日の節分をもって年が変わる為、誕生日が1月1日から 2月2日の方は前年の年干支となります							

(あたり星)の吉凶

○	○	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●
大 曜吉 星	大 曜吉 星	大 計都 星	大 火曜 星	大 日曜 星	半 金曜 星	水曜 星	末 吉星	半 土曜 星	大 曜吉 星	大 曜吉 星	大 曜吉 星

平成二十七年 年忌一覧

一周忌	平成二十六年
三回忌	平成二十五年
七回忌	平成二十一年
十三回忌	平成十五年
十七回忌	平成十一年
二十三回忌	平成五年
二十五回忌	平成三年
二十七回忌	平成元年
三十三回忌	昭和五十八年
三十七回忌	昭和五十四年
五十回忌	昭和四十一年
百回忌	大正五年